教育研究業績書

2025年05月07日

所属： 英語グローバル学科　　資格： 教授　　氏名： 清水　利宏

研究分野	研究内容のキーワード
英語スピーチ・プレゼンテーション(主にビジネス分野)の分析および教授法，実務英語教育(ESP／主に理容美容分野)	ビジネス英語スピーチ，プレゼンテーション，レトリック，実務英語
学位	最終学歴
博士(英語学) 関西外国語大学, 修士(文化情報) 日本大学	関西外国語大学大学院 外国語学研究科 英語学専攻 博士課程後期　修了

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1.ICTを活用した反転授業の実践	2016年4月～ 現在	ゼミにおける研究活動や演習教育をインターネットのグループウェア(サイボウズ社、Zoho社)上で日々積極的に実践すると同時に、実際の対面授業においては さらに高度な議論を実現する「反転授業」を実践している。こうしたICTの活用により、いつでも学生が演習指導を受けられるほか、学生相互の議論や指導内容を皆で確認できる「学びの共有化」を実現している。
2.すべて英語による実践型のビジネス・プレゼンテーション教育	2011年4月～ 現在	英語による実践型のスピーチ、プレゼンテーション（ビジネスコミュニケーション）講義を実施している。基本的なビジネスコミュニケーション論の講義と、プレゼンテーションの実践演習のバランスに留意し、学生の英語学習ニーズに対する意識強化を目指している。
3.広告業界での実務経験を生かした英語プレゼンテーション教育	2005年4月～ 現在	広告業界での実務・受賞経験を生かし、グラフィックデザインとコピーライティングにみられる様々な視覚構成術や説得術を、英語プレゼンテーション教育に反映させている。この指導を受けた学生が、全国規模の英語プレゼンテーション大会において上位入賞を果たしている。
4.英語スピーチ活動における教育貢献（課外教育）	2005年4月～ 現在	英語スピーチコンテストの運営委員や審査委員として継続的に活動するほか、出場学生に対する課外指導や、英語教員・実務家対象のセミナー活動を積極的に続けている。自身の研究成果を反映したスピーチ教育を通じて、指導学生が学外大会等で受賞(以下「4.その他」参照)をするなど、教育と研究が一体となり、学外に誇る成果を残している。※別欄「その他［指導学生受賞］」に主要実績一覧を記載
5.マルチメディアと「インターカード」の活用	1998年4月～ 現在	全授業において、テキストと連携するマルチメディア教材を自主制作している。どの科目においても、プレゼンテーションやシャドゥイングなど、実際に英語を声に出す機会を多く設けるよう工夫するほか、ペアワークやグループワークを基本とした授業運営で、基礎的な英語運用力を伸ばす試みを実践している。また、独自の「インターカード」(メッセージ交換型のネームプレート)を活用し、学生相互と教員がともに励まし合う環境を整えている。
2 作成した教科書、教材		
1.メディアミックスによる教育教材の制作	1998年4月～ 現在	専門的な映像編集や版下デザインのための環境を整備して、各種の印刷教材やデジタル教材をみずから制作している。これらの教育素材やオンラインビデオ教材の制作協力を通じて学生の学習意欲の向上に努めている。
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1.理容美容業界向けESP教育の実践	1998年4月～ 現在	理容美容業界の実務経験（サロンオーナー・ヘアスタイリスト）を持ち、1998年に施行された理容師美容師養成施設における２年制教育の導入から13年間、美容英語教育に携わってきた。その後も、美容英語教育分野におけるESP研究および教材開発を継続し、2016年4

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
2.広告出版業界での経験と教育研究活動	1992年4月～現在	月には日本理容美容教育センター発行の外国語教材を単著で刊行。現在も同教育センター委嘱の外国語インストラクターとして、日本における美容英語教育／ESP研究の主導的役割を担っている。 広告出版業界における実務経験(コピーライティング／グラフィックデザイン)や、各種広告賞の受賞歴を、積極的に研究教育活動に応用している。広告制作における説得術をもとにスピーチの弁証術の教育研究を論じられるほか、実務面においては、『すぐに使える ビジネス英語スピーチ100』(自著, 研究社, 2014)の装丁から版下に至るまで、すべて自身のスタジオで制作・納品をした。
4 その他		
1.[指導学生受賞] 第18回 森田杯・英文毎日杯 ペアで紹介する日本文化英語プレゼンコンテスト(京都外国語大学 英米語学科 主催)	2024年12月	優勝（森田杯 獲得）
2.[指導学生受賞] 第54回 谷本杯争奪 全日本学生英語弁論大会(関外国語大学 英語研究会 主催)	2024年12月	３位入賞
3.[指導学生受賞] 第40回 英語オラトリカルコンテスト(武庫川学院 主催)	2024年11月	優勝
4.[指導学生受賞] 第9回 デネブ杯争奪インビテーショナル英語スピーチコンテスト（広島工業大学 国際交流センター 主催）	2024年11月	準優勝
5.[指導学生受賞] 第13回 城西大学英語スピーチコンテスト(城西大学 リベラルアーツセンター 主催)	2024年8月	優勝（城西大学学長賞 受賞）
6.[指導学生受賞] 第17回 森田杯・英文毎日杯 ペアで紹介する日本文化英語プレゼンコンテスト(京都外国語大学 英米語学科 主催)	2023年12月	優勝（森田杯 獲得）
7.[指導学生受賞] 第39回 英語オラトリカルコンテスト(武庫川学院 主催)	2023年11月	優勝
8.[指導学生受賞] 第12回 城西大学英語スピーチコンテスト(城西大学 語学教育センター 主催)	2023年11月	鶴ヶ島市長賞 受賞
9.[指導学生受賞] 第8回 秋KESSA杯争奪 学生英語弁論大会(関ESS連盟 主催)	2023年11月	３位入賞
10.[指導学生受賞] 第27回 人見杯 英語スピーチコンテスト(昭和女子大学 国際学部 主催)	2023年11月	準優勝
11.[指導学生受賞] 第16回 森田杯・英文毎日杯 ペアで紹介する日本文化英語プレゼンコンテスト(京都外国語大学 英米語学科 主催)	2022年12月	３位入賞（英文毎日杯 獲得）
12.[指導学生受賞] 第38回 英語オラトリカルコンテスト(武庫川学院 主催)	2022年11月	優勝
13.[指導学生受賞] 第9回 デネブ杯争奪インビテーショナル英語スピーチコンテスト（広島工業大学 国際交流センター 主催）	2022年11月	優勝（デネブ杯獲得）
14.[指導学生受賞] 第40回 春KESSA杯争奪 学生英語弁論大会(関ESS連盟 主催)	2022年5月	準優勝
15.[教育表彰] 「授業改善奨励賞」受賞	2022年3月	優れた授業実践・改善の取り組みに対して、武庫川女子大学 瀬口和義学長から表彰。
16.[教育表彰] 「教育改善・改革プラン表彰」受賞	2022年3月	教育を通じた社会連携活動(Global Speakers Seminar)の貢献に対して、学校法人武庫川学院 大河原量学院長から表彰。
17.[指導学生受賞] 英語プレゼンテーションコンテスト2021（交野市教育委員会 主催）	2022年3月	交野市長賞（優勝）
18.[指導学生受賞] 第15回 森田杯・英文毎日杯 ペアで紹介する日本文化英語プレゼンコンテスト(京都外国語大学 英米語学科 主催)	2021年12月	優勝（森田杯 獲得）
19.[指導学生受賞] 第37回 英語オラトリカルコンテスト(武庫川学院 主催)	2021年11月	優勝
20.[指導学生受賞] 第54回 谷本杯争奪 全日本学生英語弁論大会(関外国語大学 英語研究会 主催)	2021年11月	準優勝

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
4 その他		
21.[指導学生受賞] 第6回 秋KESSA杯争奪 学生英語弁論大会(関ESS連盟 主催)	2021年11月	３位入賞
22.[指導学生受賞] 第45回 福澤杯争奪 全日本学生英語弁論大会(慶應義塾大学英語會 主催：日本三大大会)	2021年10月	準優勝
23.[指導学生受賞] 第9回 エリザベス・ラッセル杯 英語スピーチコンテスト(活水女子大学 主催)	2021年10月	準優勝
24.[指導学生受賞] 第43回 上智大学短期大学部 学長杯争奪英語弁論大会(上智大学短期大学部 主催)	2021年2月	３位入賞
25.[指導学生受賞] 第36回 英語オラトリカルコンテスト(武庫川学院 主催)	2020年12月	優勝
26.[指導学生受賞] 第8回 全国学生英語プレゼンテーションコンテスト(神田外語グループ・読売新聞社 主催)	2019年12月	トップ50賞 受賞（全出場者 799名中）
27.[指導学生受賞] 第35回 英語オラトリカルコンテスト(武庫川学院 主催)	2019年11月	優勝、準優勝
28.[指導学生受賞] 第17回 青嵐杯 英語弁論大会(北九州市立大学 米英研究会 主催)	2019年11月	優勝（青嵐杯 獲得）
29.[指導学生受賞] 第3回 みどり杯 英語弁論大会(龍谷大学 学術文化局ESS 主催)	2019年6月	準優勝
30.[教育表彰] 「授業改善奨励賞」受賞	2019年3月	優れた授業実践・改善の取り組みに対して、武庫川女子大学 瀬口和義学長から表彰。
31.[指導学生受賞] 香港杯 全日本大学 学生大使 英語プログラム 2018-2019(香港特別行政区政府 駐東京経済貿易代表部 主催)	2019年1月	３位入賞
32.[指導学生受賞] 第12回 森田杯・英文毎日杯 ペアで紹介する日本文化英語プレゼンコンテスト(京都外国語大学 英米語学科 主催)	2018年12月	準優勝（英文毎日杯 獲得）
33.[指導学生受賞] 第34回 英語オラトリカルコンテスト(武庫川学院 主催)	2018年11月	優勝
34.[指導学生受賞] 英語スピーチコンテスト2018（交野市教育委員会 主催)	2018年8月	交野市教育長賞（部門優勝）
35.[指導学生受賞] 香港杯 全日本大学 学生大使 英語プログラム 2017-2018(香港特別行政区政府 駐東京経済貿易代表部 主催)	2018年1月	優勝(香港杯 獲得)１名、ほか ファイナリスト選出 ２名
36.[指導学生受賞] 第44回 大隈杯 全日本学生英語弁論大会(早稲田大学 英語会 主催：日本三大大会)	2017年12月	ファイナリスト 選出
37.[指導学生受賞] 第6回 全国学生英語プレゼンテーションコンテスト(神田外語グループ・読売新聞社 主催)	2017年12月	トップ50賞 受賞（全出場者 641名中）
38.[指導学生受賞] 第15回 青嵐杯 英語弁論大会(北九州市立大学 米英研究会 主催)	2017年11月	３位入賞
39.[指導学生受賞] 第33回 英語オラトリカルコンテスト(武庫川学院 主催)	2017年11月	優勝
40.[指導学生受賞] 香港杯 全日本大学 学生大使 英語プログラム 2016-2017(香港特別行政区政府 駐東京経済貿易代表部 主催)	2017年1月	準優勝
41.[指導学生受賞] 第32回 英語オラトリカルコンテスト(武庫川学院 主催)	2016年11月	優勝
42.[教育表彰]「より良い授業方法の工夫と実践表彰」受賞	2016年8月	優れた授業実践・改善の取り組みに対して、武庫川女子大学 糸魚川直祐学長(当時)から表彰。
43.[指導実績]「G7 ジュニアサミットin三重2016」日本代表参加者 英語指導	2016年1月～2016年4月	2016年5月のG7(主要国首脳会議)関連行事として開催された「ジュニアサミットin三重」の日本代表参加者に対する英語スピーチ・ディスカッションの指導を担当した。この指導については、新聞・テレビ等でも何度か報道された。
44.[指導学生受賞] 第9回 森田杯・英文毎日杯 ペアで紹介する日本文化英語プレゼンコンテスト(京都外国語大学 英米語学科 主催)	2015年12月	３位入賞(英文毎日杯 獲得)
45.[指導学生受賞] 第4回 黒正杯 英語スピーチコンテ	2010年10月	優勝

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
4 その他		
スト(大阪経済大学 主催)		
46.[指導学生受賞] 第22回 学生奨学論文(大阪経大学会主催)	2010年1月	入選
47.[指導学生受賞] 第3回 黒正杯 英語スピーチコンテスト(大阪経済大学 主催)	2009年10月	優勝
48.[指導学生受賞] 第43回 英語スピーチコンテスト(大阪サンフランシスコ姉妹都市協会・大阪メルボルン姉妹都市協会・大阪シカゴ協会 主催)	2009年10月	大阪メルボルン姉妹都市協会長賞(準優勝)
49.[指導学生受賞] 第1回 三大学親善 英語スピーチコンテスト(大阪経済大学・東京経済大学・松山大学共催)	2009年8月	優勝
50.[指導学生受賞] 第15回 カルフール杯 英語スピーチコンテスト(松山大学 ESS主催)	2008年10月	３位入賞
51.[指導学生受賞] 第2回 黒正杯 英語スピーチコンテスト(大阪経済大学 主催)	2008年10月	優勝
52.[指導学生受賞] 第1回 黒正杯 英語スピーチコンテスト(大阪経済大学 主催)	2007年10月	優勝
53.[指導学生受賞] 第1回 学長杯 英語スピーチコンテスト(鈴鹿大学 主催)	2005年10月	優勝

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1.TOEIC リスニング＆リーディング(L&R) テスト 一般公開試験 980点（リスニング部門満点）	2016年9月	
2.TOEIC スピーキング＆ライティング(S&W) テスト 一般公開試験 400点（両部門満点）	2007年3月	
3.実用英語技能検定(STEP) 1級	2004年7月	
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1.一般社団法人日本毛髪科学協会 毛髪診断士	2003年8月～2015年1月	
2.管理理容師資格 取得	2001年11月	
3.理容師免許 取得	1998年2月	
4 その他		
1.「授業改善奨励賞」学長表彰	2022年3月	武庫川女子大学 学長表彰(瀬口学長)
2.「教育改善・改革プラン表彰」学院長表彰	2022年3月	学校法人武庫川学院 学院長表彰(大河原学院長)
3.「授業改善奨励賞」学長表彰	2019年3月	武庫川女子大学 学長表彰(瀬口学長)
4.80周年記念シンボルマーク公募 最優秀賞	2017年10月	武庫川学院創立80周年記念「シンボルマーク・キャッチコピーのアイデア公募」シンボルマーク部門 最優秀賞（公式採用）
5.「より良い授業方法の工夫と実践表彰」学長表彰	2016年8月	武庫川女子大学 学長表彰(糸魚川学長・当時)
6.感謝状表彰	2009年6月	学校法人長谷川学園 学園長表彰
7.青春俳句大賞 英語俳句部門 最優秀賞	2004年3月	龍谷大学主催、文部科学省後援
8.コミュニティFM 生放送レギュラーDJ	1998年10月～1998年12月	地方FM局の開局とともに、ワンマンスタイルのバイリンガルDJとして、毎週90分の生放送番組の企画・制作・出演を担当。120分間の生放送特別番組も担当した。
9.ネーミング、ラジオCMコピー賞等の受賞	1992年2月～2004年3月	コピーライターとしての実務経験とともに、官公庁、大手企業、放送局主催のネーミングコンペやラジオCMコピーコンテストにおける受賞(公式採用)実績がある。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1.『外国語』（英語）第2版(改訂増補版)	単	2016年11月	公益社団法人日本理容美容教育センター 刊	2016年4月・日本理容美容教育センター発行の『外国語』(英語)を一部改訂するとともに、解答例と解説を補った増補版。(総ページ数)128ページ。 特に本増補版では、理容美容業界における実務英語の自学者を主な

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
				読者層に想定し、実践的な視点に基づく丁寧な解説を加え、国際派のヘアスタイリストとして自立できる語学力の養成に主眼を置いた。
2.『外国語』（英語）	単	2016年4月	公益社団法人日本理容美容教育センター 刊	我が国唯一の同教育センター指定外国語教材。(総ページ数)120ページ。 日本全国の美容学校学生を対象とした、国際実務英語の理論および実践を学ぶ国内唯一の統一教材を単独で執筆。単なるダイアログによる会話例の提示だけではなく、ESPの基本理論に基づいた「動機づけ」の視点や、CEFRの適用、発展学習への道筋を示すことに重点をおいて執筆・編集した。
3.『すぐに役立つ ビジネス英語スピーチ100 上達の秘訣30＋モデル文100』	共	2014年3月	株式会社研究社 刊	亀田尚己氏(同志社大学教授 ※執筆当時)との共著。(総ページ数)256ページ。 英語ビジネススピーチに関連する研究成果を、実践的な観点から整理した書籍。概念メタファ理論における「概念」の考え方を、実学レベルで採用するという新たな試みを提案している。複雑な理論を分かりやすく解説することを目指して、実際のビジネスをモデルにした100種類のスピーチと、それらと連携する30講の理論解説を編集。基礎から応用までの理論と、発展的な実践までを取り上げて、幅広いビジネススピーチを考察している。
4.*New Horizons in English Language Teaching: Language, Literature and Education*	共	2013年12月	関西外国語大学 国際文化研究所（IRI）刊	pp. 235-258（分担執筆）。 “Chronological Perspectives in Metaphor Research and Applications to Business Speech Education”の題目で、英語スピーチやプレゼンテーション教育における、概念メタファの知見を援用した「ことば」の選択と時系列的配置の技法について論じた。身近なビジネスコミュニケーションの事例紹介にとどまらず、最新の企業PR戦略における時系列的なメタファ設計の重要性を考察し、教育への応用展開のステップを具体的に示した。後半では、実際の教育モデルを描きながら、「メタファグラム」の教育活用の方法を論じた。
5.『高等教育における英語授業の研究』	共	2007年1月	大学英語教育学会（JACET）授業学研究委員会 編、松柏社 刊	pp.168-169（分担執筆）。 特徴のある英語教育の実践事例として「理容師美容師専門学校における実践型ＥＳＰ教育」を執筆。サロン業務資格者によるESP教育の実践事例を解説し、即戦力の育成が求められる実務英語教育現場では、英語教育者と実務者とが協同的に行なうCollaborative Teachingが重要視されるべきであると論じた。
2 学位論文				
1.”Re-defining the Dominance of Conceptual Metaphors in Business Speeches from a Chronological Perspective: A Methodological Approach Employing the Mental Distance Concept”	単	2012年3月	関西外国語大学大学院 外国語学研究科 博士学位論文	(総ページ数)260ページ。 概念メタファ理論に基づき、ビジネススピーチにおける話者の概念構造の特徴を、新たな「時系列的な視点」で分析した。必要な解析プログラムを独自に開発し、質的・量的の両面から、ビジネスコミュニケーションにおけるメタファ構造を、「メタファグラム」を用いて視覚的に実証した。CEOスピーチと米国大統領のスピーチをコーパス化したうえで比較検証することで、ビジネススピーチにおける「時系列的な概念表出の重要性」を統計的に立証し、その分析結果を実際の英語教育に応用するための指針をまとめた。
2.「受動的学習環境におけるモティベーション本位の実務英語教育と実践」	単	2006年1月	日本大学大学院 総合社会情報研究科 修士学位論文	(総ページ数)87ページ。 「情意フィルター」の役割と「道具的動機づけ」を中心的な議題とし、受動的な態度で実務英語学習に臨む学習者に対するESP教育を考察した。本稿では、学習者の「道具的ニーズ」の強化を図りつつ、教室に実務現場を忠実に再現することが学習者のモティベーションを高めることを論証した。
3 学術論文				
1.”Award-Winning Pair Presentations Reexamined”【査読付】	単	2024年12月	日本国際情報学会（JSGSCS）編『国際情報研究』, 第21号, pp. 64-75.	2023年に発表したペアプレゼンテーションの分析結果について、新たな研究素材を追加してその研究成果の有効性の検証を試みた。 2023年論文では、優れたペアプレゼンテーションの基本要素として「会話調の構造」と「起転結の３ブロック構造」が提示されたが、

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
				本研究ではその両方が改めて支持された。さらに本研究では、起証結の構造を決定するブロックの境界や「転」に存在する転換点(trigger)の定義を数値的に示すことにも成功した。
2."Award-Winning Pair Presentations Explored: A Statistical View"【査読付】	単	2023年12月	日本国際情報学会(JSGSCS)編『国際情報研究』, 第20号, pp. 66-77.	ペア・プレゼンテーションの全国大会で上位入賞した発表原稿を素材とし、優れたペア・プレゼンの本質的な特徴を検証した。言語統計分析における類似性の検証や、優れた単独スピーチに関する先行研究との比較を通じ、ペア・プレゼンは自然会話型の物語構成を持つと推定された。また時系列分析では、時間軸を３分割する統計的有意な周期性が示され、その中間部で話題転換を促す誘発点が観察されたことから、優れたペア・プレゼンは「起・転・結」の構造を持つことが判明した。
3."A Statistical Analysis of Award-Winning Speeches"【査読付】	単	2020年3月	武庫川女子大学英文学会 編 *Mukogawa Literary Review*, vol. 57, pp. 29-53.	英語スピーチコンテストにおける受賞作と非受賞作を分ける要因を明らかにするため、コンテストの応募作を３グループに分類し、それらの構造的な違いを言語データ処理と統計分析によって多角的に解析した。一般論として語られる「優れたスピーチ」の構成要素と本研究結果が示唆する要点の比較考察を経て、学生の実例によって示される「勝てるスピーチ」の本質の一端が「言葉の選択」にあることを明らかにした。
4."Underlying Relationships between Business and Political Speeches: Analysis of Conceptual Structures from a Macro Perspective"【査読付】	単	2018年12月	日本国際情報学会(JSGSCS)編『国際情報研究』, 第15号, pp. 3-11.	ビジネス英語スピーチと政治スピーチの関連性について、時系列の比喩構造を手掛かりに「マクロ的な視点からの分析」を試みた。11年間・110本のビジネススピーチを分析した先行研究の論点を、時系列分析によって統計的・視覚的に検証した結果、大統領選挙の影響と推察される8年間の周期的な特性などが有意に認められた。
5."Metaphorical Structures of Business Speeches Reexamined: Insights from Metaphorgrams of 110 Business Executive Speeches"【査読付】	単	2017年12月	日本国際情報学会(JSGSCS)編『国際情報研究』, 第14号, pp. 3-14.	これまでの研究に新たな50 本のビジネススピーチをコーパスに追加し、基準年(2010年)の前5年(2005～2009 年)と後5年(2011～2015 年)の計11年間の傾向が分析可能な条件を整えた。合計110本、約275,000 語のビジネススピーチコーパスを用いて、これまでに得られた研究結果を検証した結果、メタファグラム分析の有効性が改めて示されるとともに、時間軸上で比喩表現の山が構成されるとしたビジネススピーチ特有の性質についても、従来の示唆を裏付ける研究結果が得られた。
6."A Comparative Analysis of Conceptual Metaphors in Business and Political Speeches : A Chronological Approach"【査読付】	単	2016年12月	日本国際情報学会(JSGSCS)編『国際情報研究』, 第13号, pp. 3-14.	ビジネススピーチ50本と、アメリカ大統領の政治スピーチ20本の比較分析により、ビジネススピーチにおける概念メタファの「支配性」を再考した。その結果、(1)量的支配性、(2)分布的支配性に加えて、(3)時系列的支配性が、政治スピーチにおいても存在することが確認された。また、メタファの量的変化が、政治スピーチでは「均等な分散」と関連する一方、ビジネススピーチでは「(3)時系列的支配性」と高い相関を示す違いも明らかになった。
7."An Extensive Study on Characteristics of Business Speeches : A Corpus Approach to Business Metaphors"【査読付】	単	2015年12月	日本国際情報学会(JSGSCS)編『国際情報研究』, 第12号, pp. 104-115.	ビジネススピーチにおける「時系列的支配性」の意義に着目した先行研究の有効性を再検証を試みた論文。2005～2009年に発表されたビジネススピーチ50本によるコーパスを構築し、メタファグラム分析によって、その特徴を数値化した。その結果、先行研究で提起された「時系列的支配性」の存在、および他の支配性との関連性について、同様に支持する結果が得られた。本研究により、今後のビジネススピーチに対する継続的研究の意義が確認できた。
8."Examining the Dominance of Conceptual Metaphors in	単	2014年12月	日本国際情報学会(JSGSCS)編『国際情報研究』, 第11号, pp. 56-67.	ビジネス英語スピーチにおける「主要な概念メタファ」を定義するための新たな指標として、「時系列的支配性」を提起し、その意義を検証した論文。ビジネススピーチ10本の詳細なデータの再考と検証の結果、「時系列的」という第３の支配性は、従来から実績のあ

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
Business Speeches: The Third Factor”【査読付】				る量的支配性と一定の関連性を維持しつつも、分布的支配性からは独立した指標として機能することが明らかとなり、時系列的支配性の重要性が示された。
9.“The Practical Use of Metaphors in Business Communication: A Chronological View”	単	2014年3月	同志社大学商学会編『同志社商学』, 第65巻 第5号, pp. 77-94.	ビジネスメッセージとメタファの関わりを概観したうえで、株式会社楽天のCEOメッセージにおける概念メタファの時系列的推移をメタファグラムで分析した。その結果、時間軸上に記録された概念構造には特徴的な転換現象が見られ、それが論旨の明快さを支えていた。メタファを指導する際には、こうした「視覚的な例示」を伴う教育が、「実社会での言葉選び」に対する学生の意識を高めることを提起した。
10.“Designing Business Speeches with CEO’s Metaphorgrams”【査読付】	単	2013年9月	国際ビジネスコミュニケーション学会(JBCA) 編『研究年報』, 第72号, pp. 39-50.	ウェブサイトの「企業理念」の主要コンセプトが、どのように「CEOメッセージ」に反映されているのかを、メタファグラム分析によって検証した。さらに、その検証過程で得られたメタファグラムを用いて、実際にCEOメッセージの改訂を試みた。その改訂により、「企業理念」の２つの主要概念が、「CEOメッセージ」の時間軸上で連携するような作用を示す結果をもたらした。
11.“Dots or Flows? - A Field of Metaphors in Business”【査読付】	単	2012年9月	国際ビジネスコミュニケーション学会(JBCA) 編『研究年報』, 第71号, pp. 41-50.	これまでに蓄積された「時系列ベースの概念レトリック分析」について、基本に立ち返って「点」と「線」の分析技法の、それぞれの優位性を検討する。点的分析は、それぞれのレトリックに対する連携が批判しやすいのに対し、線的分析では、特定のスピーチにおける個人の概念推移を統計的に示せることを論じた。
12.“Metaphorgram: As a Component of Metaphorprint - Disclosing the Chronological Features of Conceptual Metaphors”【査読付】	単	2011年11月	日本国際情報学会(JSGSCS) 編『国際情報研究』, 第8号, pp. 14-25.	これまでの「時系列的メタファ分析」の知見を集約し、メンタルディスタンス分析によって生成されるメタファグラムが、人物を特定しうる性質を持つかを各種の統計分析によって考察した。その結果、人物特定に至るまでの性質はないものの、表面的には観察できない「隠れた周期性」の存在が明らかとなった。これにより、メンタルディスタンス分析の「教育面への応用」の可能性が、改めて支持されることとなった。
13.“Dominant Metaphor Factors in Business Speech Communication: A Chronological View”	単	2010年11月	大阪経大学会 編『大阪経大論集』, 第61巻 第4号, pp. 105-122.	独自に開発した、実験的なレトリック分析技法である「メンタルディスタンス仮説」をさらに検証した。新たに４本のビジネススピーチを分析し、従来の２つの支配性構造（絶対数と分布率）以外に、「時系列的支配性」が存在することを統計的・視覚的に立証することに成功した。この成果を応用し、概念的なレトリックアプローチを計画的に推進できる可能性が示唆された。
14.“Born to Be a Weapon: A Critical Analysis of Metaphorical Business Communication”	単	2010年9月	大阪経大学会 編『大阪経大論集』, 第61巻 第3号, pp. 165-177.	最新通信機器を取り巻くビジネス環境において、Apple, Softbank Mobile, NTT Docomo各社の広報アプローチにみる概念メタファの役割を分析した。概念メタファによって、商品広報に付加価値が与えられる点について具体例を挙げて論じ、ブッシュ元大統領の演説レトリックとの共通点を指摘。概念メタファによる「聴衆操作」の実情を明らかにした。
15.「ビジネス英語教育における動機付けと英語スピーチ課題の相関性」【査読付】	単	2010年9月	国際ビジネスコミュニケーション学会(JBCA) 編『研究年報』, 第69号, pp. 49-61.	ヘアビジネス業界向けＥＳＰ教育を主題とし、まずは同業界で働く人の基礎的な学習者特性について再検討した上で、「道具的ニーズ」を強化する取り組みについて論じた。美容業界向けＥＳＰにおけるパブリックスピーキングの役割を考えたとき、学習者側の「特定の文法知識の程度」を理解することが、スピーチ課題を検討する上での重要となる点を論証した。
16.“Developing the T-Scope (version 2.0) Program for a Statistical Approach to Business Metaphor Analysis”	共	2010年7月	大阪経大学会 編『大阪経大論集』, 第61巻 第2号, pp. 329-343.	下倉雅行氏との共同研究。(清水が全ページの執筆を担当) メンタルディスタンス分析の数値演算を処理する自主開発のコンピュータプログラム(T-Scope / Visual Basic for Applications)のバージョン2.0について、その開発意図や動作アルゴリズムを論じた。手作業領域の自動化が、量的分析にもたらす省力性能は大きく、汎用性ファイルによる書き出し機能と合わせて、今後の発展的展望を述べた。
17.“A Metaphor Identification Procedure for Corpus-Based	単	2010年5月	大阪経大学会 編『大阪経大論集』, 第61巻 第1号, pp. 203-215.	メタファ研究において、今もなお議論が残る「メタファ定義」に関して、特に「メンタルディスタンス分析」のためのメタファ定義を考察した。実際のビジネススピーチを題材とし、46点のメタファ表現について、具体的な根拠とメタファ効果について個別に論じた。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
‘Mental Distance’ Analysis”				
18.“‘Mental Distance’Concept for Chronological Metaphor Analysis of Business Executive Speeches”	単	2010年3月	大阪経大学会 編『大阪経大論集』, 第60巻 第6号, pp. 245-268.	ビジネススピーチにおいて、メタファの技巧的活用による聴衆との「心的距離」の操作を「メンタルディスタンス仮説」として提起した。同時に、その推移を視覚的にグラフ化する手法を提示することで、従来は視覚化できなかった「概念メタファの時系列的表出傾向」を、具体的な実験データをもって論証することに成功した。
19.“A Comparative Study of Metaphors in Business Speeches”【査読付】	単	2009年12月	日本国際情報学会(JSGSCS)編『国際情報研究』, 第6号, pp. 20-28.	カルロス・ゴーン（日産自動車）と、リー・アイアコッカ（クライスラー）が発表した、工場閉鎖のスピーチを題材とし、概念メタファの質的比較考察を行なった。その結果、イントロ部がスピーチ全体のメタファのイメージを決定づける可能性が示唆され、メタファの時系列的分析への期待が深まった。
20.“Perspectives of Metaphors in Business Speeches”	単	2009年5月	大阪経大学会 編『大阪経大論集』, 第60巻 第1号, pp. 141-150.	英語スピーチにおける比喩表現が、話者が主題を捉える際の心理的距離に与える影響について考察した論文。比喩に関する先行研究を整理したうえで、ビジネスにおける比喩表現の重要性を論じ、比喩表現と話者の視点の距離を示す“Mental Distance”と、点的分析ではなく、線的な比喩分析を目指す“Spiral Metaphor”というふたつの仮説を示した。
21.「美容技術者のための実践型実務英語講座： 国際接客演習の理念と実際」【査読付】	単	2008年12月	社団法人日本毛髪科学協会 編『皮膚と美容』, 第40巻 第4号, pp. 2-8.	美容業界におけるESP教育および国際接客教育がどれほど「サロン本位」であるべきかを、実践事例を基に述べた論考。現在の日本の美容学校における「外国語教育」の諸問題点を指摘するとともに、それらを具体的解決するための「技術教育的発想」に基づく実務英語教育のモデルを論じた。
22.「英語スピーチ講座におけるラジオCMコピーの活用と教育実践」	単	2008年3月	鈴鹿国際大学 編 *CAMPANA*, 第14号, pp. 87-102.	ラジオCMのコピーライティング技術と英語スピーチの構築技術の共通点を比較考察し、教育法として提言した論考。筆者がこれまでに受賞した実際のラジオCMコピーを比較考察の素材とし、英語スピーチとの特徴的な共通点が「論点の視覚化作用」にあると述べた上で、その教育法にも言及した。
23.「実務英語教育における英語スピーチ訓練導入への実践方略」	単	2006年3月	鈴鹿国際大学 編 *CAMPANA*, 第12号, pp. 199-212.	学生が自らの「道具的ニーズ」に対する意識を高めることで彼らの学習動機を強化しようとする実証研究。英語スピーチをESP教育環境に導入する際、学生に対する「課題の説明方法」と、その結果もたらされる「道具的ニーズの表出傾向」に一定の相関関係があることを実証し、教育現場へ戦略的な実践法を論じた。
その他				
1．学会ゲストスピーカー				
1.英語スピーチ指導セミナー 講師	単	2025年6月	三重県高校英語教育研究会 主催	高校英語教員向け講演会
2.「英語スピーチ特別セミナー（1）テーマの選定」講師	単	2025年3月	三重県立飯野高等学校 主催、英語コミュニケーション科 2年生 対象（公開授業）	英語スピーチのトピック選びを中心とした、コンテンツの設計法に関する講演およびワークショップ
3.「英語スピーチ特別セミナー（2）Delivery」講師	単	2024年10月	三重県立飯野高等学校 主催、英語コミュニケーション科 3年生 対象(公開授業)	英語スピーチの発表技法(delivery)に関する講演および公開指導
4.「英語スピーチ特別セミナー（1）コンテンツ設計」講師	単	2024年2月	三重県立飯野高等学校 主催、英語コミュニケーション科 2年生 対象（公開授業）	英語スピーチのコンテンツの設計法や事例分析に関する講演およびワークショップ
5.「英語スピーチ特別セミナー（2）Delivery」講師	単	2023年11月	三重県立飯野高等学校 主催、英語コミュニケーション科 3年生 対象(公開授業)	英語スピーチの発表技法(delivery)に関する講演および公開指導

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1．学会ゲストスピーカー				
6.「英語プレゼンテーション・ワークショップ」講師	単	2023年6月	三重県教育委員会 主催（三重県庁）	三重県下の高校生を対象とした「グローバル・リーダー育成プログラム2023」におけるプレゼンテーションセミナーの指導
7.「英語ディスカッション・プレゼンテーションセミナー」講師	単	2023年4月	三重県教育委員会 主催（三重県庁）	三重県下の高校生を対象とした「グローバル・リーダー育成プログラム2023」におけるプレゼンテーションセミナーの指導
8.「英語スピーチ特別セミナー（1）Contents」講師	単	2023年3月	三重県立飯野高等学校 主催、英語コミュニケーション科 2年生 対象（公開授業）	英語スピーチの内容(contents)に関する講演および事例分析のワークショップ
9.「英語スピーチ特別セミナー（2）Delivery」講師	単	2022年11月	三重県立飯野高等学校 主催、英語コミュニケーション科 3年生 対象(公開授業)	英語スピーチの発表技法(delivery)に関する講演および公開指導
10.「英語プレゼンテーションセミナー」講師	単	2022年8月	三重県教育委員会 主催	三重県下の高校生を対象とした「グローバル・リーダー育成プログラム2022」におけるプレゼンテーションセミナーの指導
11.「英語ディスカッションセミナー」講師	単	2022年6月	三重県教育委員会 主催	三重県下の高校生を対象とした「グローバル・リーダー育成プログラム2022」におけるディスカッションセミナーの指導
12.「英語スピーチ特別セミナー（1）Contents」講師	単	2022年3月	三重県立飯野高等学校 主催、英語コミュニケーション科 2年生 対象（公開授業）	英語スピーチの内容(contents)に関する講演および事例分析のワークショップ
13.「英語スピーチ特別セミナー（2）Delivery」講師	単	2021年11月	三重県立飯野高等学校 主催、英語コミュニケーション科 3年生 対象(公開授業)	英語スピーチの発表技法(delivery)に関する講演および公開指導
14.第2回 Global Speakers Seminar 2021 - Toyama	単	2021年9月	主催：清水利宏 英語スピーチ・プレゼンテーション研究室、共催：富山県立富山南高等学校、後援：武庫川女子大学	(第1部) 富山県下高校生対象「英語スピーチセミナー ※公開授業」、(第2部) 富山県下高校英語教員対象「英語スピーチ指導セミナー」
15.「ホントのスピーチ、ホンネの議論。」講師	単	2021年7月	大阪府高等学校英語教育研究会 主催	高校英語教員対象 講演会
16.「これで勝てる！英語スピーチ 実践術。」講師	単	2021年7月	大阪府高等学校英語教育研究会 主催	大阪府下の高校生を対象とした講演会
17.「英語スピーチ特別セミナー（1）Contents」講師	単	2021年4月	三重県立飯野高等学校 主催、英語コミュニケーション科 3年生 対象(公開授業)	英語スピーチの内容(contents)の組み立てに関する講演およびワークショップ
18.「英語スピーチ特別セミナー Contents編」講師	単	2020年8月	三重県立飯野高等学校 主催、英語コミュニケーション科(3年生)対象	英語スピーチの内容(contents)の組み立てに関する講演およびワークショップ
19.第1回 Global Speakers Seminar 2020 - Osaka	単	2020年7月	主催：清水利宏 英語スピーチ・プレゼンテーション研究室、共催：大阪	(第1部) 大阪府下高校生対象「英語スピーチセミナー ※公開授業」、(第2部) 大阪府下高校英語教員対象「英語スピーチ指導セミナー」

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1．学会ゲストスピーカー				
			府高等学校英語教育研究会、後援：武庫川女子大学	
20.「英語スピーチ特別セミナー（2）Delivery」講師	単	2019年11月	三重県立飯野高等学校 主催、英語コミュニケーション科(3年生)対象	英語スピーチの発表技法(delivery)に関する講演および公開指導
21.「英語プレゼンの考えかた・届けかた」講師	単	2019年10月	三重県立伊勢高等学校(SSH指定校)主催、全校生徒・全教員(約1,000名)対象	科学分野の研究発表における英語プレゼンテーションの留意点に関する全校セミナー
22.「英語スピーチ特別セミナー（1）Contents」講師	単	2019年4月	三重県立飯野高等学校 主催、英語コミュニケーション科(3年生)対象	英語スピーチの内容(contents)の組み立てに関する講演およびワークショップ
23.「英語スピーチ指導セミナー」講師	単	2018年11月	三重県立飯野高等学校 主催、英語コミュニケーション科(3年生)対象	3年生を対象とした、英語スピーチ基礎講座（講演および公開指導）を担当。
24.「英語スピーチ 能力向上特別講座」(応用編)	単	2018年10月22日(2日目)	大阪府立桜塚高等学校 主催、グローバルスタディ・コミュニケーションコース(2年生)対象	高校生を対象とした英語スピーチの応用講座（主に論証術と構成法）を担当。
25.「英語スピーチ 能力向上特別講座」(基礎編)	単	2018年10月1日(1日目)	大阪府立桜塚高等学校 主催、グローバルスタディ・コミュニケーションコース(2年生)対象	高校生を対象とした英語スピーチの基礎講座（主にデリバリーおよび表現術）を担当。
26.「外国語の理解を高め、スピーチ活動へ。」	単	2018年8月	交野市立旭小学校 主催（大阪府交野市）	小学校教員対象 英語スピーチ指導セミナー
27.TEDxMieU 講演：”Speak like Talking. Talk like Presenting.”	単	2018年7月	TEDxMieU実行委員会 主催（三重大学山翠ホール）	一般聴衆を対象としたTEDイベントにおける招待講演を担当。（英語による講演）
28.「国際理解のための講演会2018」(英語スピーチ 応用講座）講師	単	2018年7月	富山県立富山南高等学校 主催、国際コース(2年生・3年生)対象	英語スピーチ(応用編)についての特別講座を担当。
29.「みえ未来人育成塾2018」講師	単	2018年6月	三重県教育委員会 主催（四日市公害と環境未来館）	三重県の高校生・大学生を対象とした、英語スピーチ／英語ディスカッションに関する講演およびワークショップを担当。（英語による講演）
30.「英語スピーチ指導本音の議論」講師	単	2017年12月	三重県教育委員会／三重県立宇治山田商業高校 共催	高校教員対象 英語スピーチ指導に関する講演会・ワークショップを担当
31.「どう伝える？どう伝わる？ 英語スピーチ発表術」講師	単	2017年12月	三重県立宇治山田商業高等学校 主催、商業科国際コース(全学年) 対象	高校生向けの英語スピーチ基礎講座(講演会)を担当。
32.「英語スピーチ 指導法に関する研修会」講師	単	2017年11月	三重県立飯野高等学校 主催（高校英語教員対象）	英語科教員対象のスピーチ指導法の研修会を提供。
33.「英語スピーチ指導セミナー」講師	単	2017年11月	三重県立飯野高等学校 主催、英語コミュニケーション科(3年生)対象	3年生を対象とした、英語スピーチ基礎講座を担当。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1．学会ゲストスピーカー				
34.「英語教員向け 英語スピーチ指導セミナー」講師	単	2017年7月	富山県立高等学校 主催（高校英語教員対象）	「英語スピーチ特別講座 Backstage」(英語教員対象の英語スピーチ指導法に関する講演会)を担当。
35.「国際理解のための講演会2017」(英語スピーチ基礎講座）講師	単	2017年7月	富山県立富山南高等学校 主催、国際コース(2年生・3年生)対象	英語スピーチの基礎に関する特別講座(生徒対象講演会）を担当。
36.「みえ未来人育成塾2017」 講師	単	2017年6月17日～18日	三重県教育委員会 主催（三重県総合文化センター）	三重県の高校生・大学生を対象とした、ディスカッションおよびプレゼンテーション(英語グループ／日本語グループ)に関する講演とワークショップ(1日目)、プレゼンテーションセッション(2日目)を担当。
37.「英語スピーチ指導セミナー」講師	単	2016年10月	三重県立飯野高等学校 主催、英語コミュニケーション科(3年生)対象	同校におけるスピーチコンテストの英語スピーチ準備講座を担当。
38.「英語スピーチ伝達力養成講座」 講師	単	2016年8月	三重県立津西高校 主催、国際科学科対象	夏期合宿講座における特別授業(英語スピーチ講座)を担当。
39.「三重の高校生サミット」 講師	単	2016年6月	伊勢志摩サミット三重県民会議／三重県教育委員会 共催（百五銀行丸の内本部棟）	三重県の高校生・大学生を対象とした、ディスカッション技術(英語および日本語)に関する講演とワークショップを担当。
40.「ジュニアサミット in 三重」 日本代表参加者 研修会 講師	単	2016年1月～4月	伊勢志摩サミット三重県民会議／三重県教育委員会（三重県庁）	ジュニアサミット（伊勢志摩サミット関連行事／外務省主催）の日本代表出場者を対象とした、英語スピーチとディスカッションの技術指導を担当(4か月間)。
41.「英語スピーチ指導セミナー」講師	単	2015年11月	三重県立飯野高等学校 主催、英語コミュニケーション科(3年生)対象	3年生を対象とした、英語スピーチの発表技術の基礎講座を担当。
42.「サロン英語教育の新展開： 導入・実践・改善のポイント」 （招待講演）	単	2015年8月	東海地区理容美容学校協議会 主催「夏季研修会」(鳥羽シーサイドホテル)	理容師美容師養成施設の教員向け講演会を担当。
43.「すぐ美味しい！ サンドイッチ式プレゼン教室： “シンプルさ”に続く英語発表のヒント」 （招待講演）	単	2015年2月	武田薬品工業株式会社 主催「第4回S-PCフォーラム（カンファレンス）」(JRホテルクレメント高松)	現役医師を対象とした英語プレゼンテーションの技術研修に２年連続で招聘され、特別講演を開催した。
44.「英語スピーチ指導セミナー」講師	単	2014年10月	三重県立飯野高等学校 主催、英語コミュニケーション科(3年生)対象	3年生を対象とした、英語スピーチの発表技術の基礎講座を担当。
45.「英語でシンプルに伝えるプレゼン術」（招待講演）	単	2014年2月	武田薬品工業株式会社 主催「第3回S-PCフォーラム（カンファレンス）」(高松国際ホテル)	現役医師を対象とした英語プレゼンテーションの技術研修における特別講演を提供した。
46.「焦げる！英語スピーチの教え方」 ～実践型スピーチ教育を見直す３つの課題～ （招待講演）	単	2014年1月	三重県高等学校英語教育研究会 冬季研究会、三重県教育委員会研修センター 共催（三重県立 津高等学校）	三重県の高校英語教員対象 講演会を提供。
47.三重セルハイ・英語	単	2012年11月	三重県立飯野高等	3年生を対象とした、英語スピーチの発表技術の基礎講座を担当。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1．学会ゲストスピーカー				
スピーチ指導セミナー 講師			学校 主催、英語コミュニケーション科(3年生)対象	
48.三重セルハイ・英語スピーチ指導セミナー 講師	単	2011年11月	三重県立飯野高等学校 主催、英語コミュニケーション科(3年生)対象	3年生を対象とした、英語スピーチの発表技術の基礎講座を担当。
49.セルハイ・英語スピーチ指導セミナー講師	単	2009年9月	三重県立飯野高等学校 主催、英語コミュニケーション科(3年生)対象	3年生を対象とした、英語スピーチの発表技術の基礎講座を担当。
50.セルハイ・英語学習セミナー（英語スピーチ） 講師	単	2008年10月	三重県立飯野高等学校 主催、英語コミュニケーション科(3年生)対象	3年生を対象とした、英語スピーチの発表技術の基礎講座を担当。
51.コミュニケーション講座 ゲストスピーカー	単	2007年7月	国士舘大学 理工学部 留学生講座	外国人留学生を対象としたコミュニケーション基礎講座を担当。
52.コミュニケーション講座 ゲストスピーカー	単	2006年12月	国士舘大学 理工学部 留学生講座	外国人留学生を対象としたコミュニケーション基礎講座を担当。
53.「国際接客のための実務講座」講師	単	2004年11月	新理容研究会(AIMS) 主催（旭理容美容専門学校）	基礎的な実務英語(ESP)講座を担当。
54.特別英語クラス ゲストスピーカー	単	2004年5月	龍谷大学 国際文化学部 Professional English Class	道具としての外国語を学ぶ意義に関する講義を英語で担当。
55.「英語学習とESS活動」 講師	単	2003年7月	鈴鹿国際大学 英語研究会(ESS)	ESSにおける英語学習とスピーチ活動に関する講演会を担当。
2．学会発表				
1."Sharing Knowledge for Effective Pair Presentations"	単	2023年12月	日本国際情報学会(JSGSCS) 全国大会（オンライン開催）	ペアでプレゼンテーションをする際、発表内容を効果的に設計する方法を議論する。言語統計分析と時系列分析を用いた研究成果をもとに、単独スピーチとペア・プレゼンのそれぞれの特徴から「優れたペア・プレゼン」を達成するための具体的な要件を整理した。
2."Metaphorgram Analysis and the Chronological Approach to Metaphor" 【国際学会】	単	2020年6月	Reserching and Applying Metaprhor (RaAM) 13th International Convention (Hamar, Norway)	概念メタファ理論に基づく英語ビジネススピーチの考察において、時系分析を用いた新たな視点を議論した。各メタファ表現を分野別かつ時間軸で考察した際、従来型の個別のメタファ分析では確認できなかった話者の真の概念が明らかになる事例を紹介した。
3.「英語スピーチ教育をとりまく多様性：検証と課題」	単	2019年12月	日本国際情報学会(JSGSCS) 全国大会（大阪）	「多様性」という観点から英語スピーチ教育を検証し、様々な教育方法について、実際のスピーチ事例をもとに指導上の留意点を議論した。各種の英語スピーチの指導書に記載されている留意点が、実際のスピーチコンテストの入賞作品とどのような関連性を示しているのかを言語データに基づいて検討した。
4.「実務英語教育の実際：美容業界におけるESP」	単	2019年6月	武庫川女子大学英文学会 2019年度春季講演会（兵庫）	道具的ニーズに基づく専門分野別英語(ESP)教育の基本理念を概観し、理容美容業界で1998年から全国的に始まった実務英語教育の研究実践を考察。そのうえで、発表者が理想とする美容英語教材に触れ、次の世代に向けた業界独自のESP教育がとるべき方針を示した。
5.「実務英語教育における教材制作の課題と改善」	単	2017年12月	日本国際情報学会(JSGSCS) 全国大会（名古屋）	実務英語教育(ESP)領域における、全国統一英語教材の制作プロセスについての問題点を議論し、その解決のプロセスを共有した。単なる事例紹介ではなく、問題解決の背景にある研究とその成果を紹介し、研究と教育が「教材」を通じていかに融合可能かを示した。
6."A New Direction of Beauty English Education in Japan" 【国際学会】	単	2017年2月	Spokane Regional ESL Conference (Washington, USA)	1998年の理容師法・美容師法の改正に伴って導入されたわが国の美容英語教育の歩みを振り返りつつ、その学習者特性に基づく教材開発に関する研究成果を紹介した。発表者の単著による日本唯一の認定教材『外国語』を例に、NVQやCEFR(ヨーロッパ言語共通参照枠)を

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
				活用しながら、学習者中心の教育展開のあり方を議論した。
7.「ビジネススピーチと政治スピーチにおける概念構造の特性と時系列的相関」	単	2016年12月	日本国際情報学会（JSGSCS）全国大会（東京）	2005年から2015年までに発表されたビジネススピーチ110本が示す概念構造の推移と、アメリカ大統領の支持率の時系列的相関について考察した。特に、ドナルド・トランプ氏が次期大統領に当選した社会背景に焦点を当て、2012年のバラク・オバマ大統領の第２期選挙以降、ビジネスリーダーが「ビジネスの指向性」を高め続けてきた傾向との関連性を議論した。
8.”Redefining Chronological Metaphorical Characteristics in Business Speeches”	単	2016年10月	国際ビジネスコミュニケーション学会(JBCA) 第76回全国大会（京都）	独自に構築した「110本のビジネススピーチコーパス」と「20本の米国大統領スピーチコーパス」から、ビジネススピーチの特徴と、政治スピーチとの関連を分析した。ビジネススピーチの比喩構造の特性が「山場の構築」にあることを改めて立証したほか、政治スピーチとビジネススピーチに時系列的相関があることを示した。
9.「国際共通言語としての美容英語(BELF)教育」	単	2015年10月	ビューティビジネス学会(JABB) 全国大会（東京）	我が国の美容師・理容師養成施設におけるビジネス英語教育の実践およびその研究を省察し、美容英語教育における学習者特性について改めて考察した。そのうえで、20年目の節目に向かう日本の美容英語教育について、今後の「教育実践の指針」と「新たな教育教材(テキスト)」の両側面から、発表者の提言を整理した。
10.「ビジネススピーチにおけるメタファグラム分析と予測モデル」	単	2014年12月	日本国際情報学会（JSGSCS）全国大会（東京）	メタファグラムを用いた時系列的メタファ分析により、2005年～2013年のビジネススピーチの傾向をマクロ的に分析。３つの支配性に基づく「５つの典型例」を抽出し、それらの推移傾向を時系列分析モデルで考察した。その結果、ビジネススピーチの特定の「型」に、一定の波形があることが判明した。ここから、大統領の支持率を予測する仮説を提示した。
11.“Chronological Trends in Business Speeches: Perspectives from Metaphorgrams”	単	2014年10月	国際ビジネスコミュニケーション学会(JBCA) 第74回全国大会（神戸）	自身が開発した時系列分析指標である「メタファグラム」の有効性について、マクロ的な視点から考察した。2006年～2013年のビジネス英語スピーチを独自にコーパス化し、それらの年度別傾向を、アメリカ大統領の政治スピーチの傾向と比較分析をして検討した。
12.“Analytical Procedure of Metaphorgram: A Practical Demonstration” 【国際学会】	単	2013年3月	Association for Business Communication (ABC) 12th International Asia-Pacific Conference (Kyoto, Japan)	ビジネスコミュニケーションにおける概念メタファの時系列構造を明らかにする「メタファグラム」について、その分析プロセスを公開・実演し、有効性について議論した。楽天グループ代表の三木谷氏のメッセージをサンプルに用いて、彼の基幹概念が時間軸上で推移する様子を視覚的に論じた。
13.“What Makes Speeches Become Business Speeches? : A Perspective from Metaphorgrams” 【国際学会】	単	2012年10月	Association for Business Communication (ABC) 77th International Convention (Hawaii, USA)	従来の「スピーチ研究」の枠組みでは明らかにできなかった「ビジネススピーチ」の定義について、メタファグラム(metaphorgram)から得られるデータを基に論じる。大統領演説と、CEOのスピーチの比較分析から、ビジネススピーチの特徴を「論点集中型のレトリック」である点を論証した。
14.“Designing Business Speeches with CEO’s Metaphorgrams”	単	2012年10月	国際ビジネスコミュニケーション学会(JBCA) 第72回全国大会（福岡）	独自の分析プログラム(T-Scope)を用いて描写したMetaphorgramによって、ビジネススピーチと政治スピーチの違いを視覚的に指摘。そのうえで、ビジネススピーチ「らしさ」を模倣することから始めるビジネス英語教育について論じた。実際のCEOのビジネススピーチを題材として、重要な論点の配置を時系列的に「見せる」授業の可能性について議論した。
15.“Chronological Metaphor Analysis and Its Application to Language Teaching”	単	2011年12月	関西外国語大学 国際文化研究所 主催「英語教育」フォーラム（大阪）	時系列的メタファ分析によって生成される「メタファグラム」を活用し、視覚的な英語プレゼンテーション教育の可能性について論じた。単なるコンテンツやデリバリー指導にとどまらず、概念メタファ理論を積極的に教育に活かすための「量的」・「時間的」な概念メタファ表現の配置に関する教育法の具体例を議論した。
16.“Dots or Flows? – A Field of Metaphors in Business”	単	2011年10月	国際ビジネスコミュニケーション学会(JBCA) 第71回全国大会（東京）	これまでに蓄積された「時系列ベースの概念レトリック分析」について、基本に立ち返って「点」と「線」の分析技法の、それぞれの優位性を検討した。点的分析は、それぞれのレトリックに対する連携が批判しやすいのに対し、線的分析は特定にスピーチにおける個

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
				人の概念推移が統計的に示させることを論じた。
17.“‘Mental Distance’ Hypothesis and Metaphors in Business: Academic and Practical Significance” 【国際学会】	単	2011年10月	Association for Business Communication (ABC) 76th International Convention (Montreal, Canada)	「比喩紋」を実際のビジネスプレゼンテーションに援用する意義と可能性、その実証性についての議論を展開。メンタルディスタンス仮説との整合性や、その応用についても検証した。学術的研究と、実践的な応用を結びつけるモデルケースを提示した。
18.“Exploring the Dominance of Conceptual Metaphors: A Chronological Approach”	単	2011年7月	日本国際情報学会(JSGSCS) 大阪地方研究発表会（大阪）	メタファの時系列的分析について、一連の取り組みを整理し、その中から、「指紋」「声紋」「筆跡」に続く分析手法としての「比喩紋」の可能性に言及。実際のスピーチ事例を引用し、今後の検証可能性について論じた。
19.“Chronological Dominance of Conceptual Metaphors in Business Communication: The third Factor”	単	2010年11月	関西外国語大学大学院 第64回 研究発表会（大阪）	時系列の概念に基づくスピーチレトリックの分析法(Mental Distance分析)により、話者の「概念メタファ構造」の変移特性を定義づけることが可能であることを示唆。本発表では、特にその「支配性」について言及し、その応用展開について議論した。
20.“Visualizing the Rhetoric of Metaphor with ‘Mental Distance’ Analysis” 【国際学会】	単	2010年10月	Association for Business Communication (ABC) 75th International Convention (Chicago, USA)	「メンタルディスタンス仮説」について、「ミクロ」「マクロ」の視点から比喩表現の批判考察をする手法を整理して提示する。メタファの単純数値化の試みに、質的側面を加味するための量的考察の分析法について議論した。
21.“Become Visual and Statistical in Business Metaphor Analysis”	単	2010年10月	国際ビジネスコミュニケーション学会(JBCA) 第70回記念 全国大会（兵庫）	類似カテゴリの商品の魅力を、異なるCEOが述べた場合、そのスピーチを背後で支配する概念メタファの構造はどうなるのか。また概念メタファを時系列的に観測した場合、どのような発見が予期されるのかについて論じた。
22.「ビジネスコミュニケーションにおける比喩分析補助ツールの開発」	共	2010年8月	教育システム情報学会(JSiSE) 全国大会（札幌）	下倉雅行氏との共同発表。開発意義と分析技術に関する前半約2/3の発表を担当。 ビジネスメタファの数量化演算に必要なVBAプログラム“T-Scope”の独自開発について述べた。分析に必要な専用アプリケーションの開発および改善の技術的背景を、具体的に論じた。
23.「メンタルディスタンス仮説とスピーチレトリック分析の展望： 概念メタファの時系列的考察から」	単	2010年6月	日本コミュニケーション学会(CAJ) 第40回記念 全国年次大会（東京）	レトリック分析の枠組みにおいて、メタファ考察の位置づけを概観し、時系列的比喩分析の手法を質的・量的な分析手法と比較した。スピーカーが維持すると仮定する「メンタルディスタンス」の定義についても検討を加えた。
24.“A Chronological Perspective of Rhetorical Metaphor Analysis in Speech Communication”	単	2010年5月	関西外国語大学大学院 第63回 研究発表会（大阪）	メタファの時系列的推移を分析するための統計的手法について、実験的分析結果をもとに提示した。概念メタファの数値化がもたらす論証上のメリットを中心に、本研究の優位性を論じた。
25.“Reconsidering the Metaphor Identification Procedure for ‘Mental Distance’ Hypothesis in Business Speeches” 【国際学会】	単	2010年4月	Association for Business Communication (ABC) 9th International Asia-Pacific Conference (Tokyo, Japan)	文化志向性の強い比喩表現と概念メタファの関わりを前提認識に据えたうえで、ビジネススピーチにおける比喩表現の時系列的推移の分析手法を論じた。とりわけ、量的側面と質的側面の結びつきをいかに統計処理すべきかを示した。
26.“Metaphor and	単	2009年11月	日本コミュニケー	ビジネスコミュニケーションにおいて、メタファが果たす役割を考

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
Mental Distance Analysis in Business Executive Speeches”			ション学会(CAJ) 関西支部大会（京都）	察した。その上で、複数のメタファ表現が複雑に絡み合う談話が、どのようなコミュニケーション効果を生み出すかを検討した。
27.“A Direction for Metaphor Analysis in Business Speeches” 【国際学会】	単	2009年11月	Association for Business Communication (ABC) 74th International Convention (Virginia, USA)	ビジネススピーチコミュニケーションにおけるメタファ分析について、時系列的な分析手法の原形概念を初めて国際的に公表した。従来の量的分析・質的分析とは異なる研究結果をもたらす可能性について議論した。
28.「ビジネス英語教育における動機付けと英語スピーチ課題の相関性」	単	2009年10月	国際ビジネスコミュニケーション学会(JBCA) 第69回全国大会（東京）	理容美容業界向けESP教育を主題とし、「道具的ニーズ」を強化する取り組みについて論じた。パブリックスピーキングの導入を考えたとき、学習者側の「特定の文法知識の程度」を理解することが、スピーチ課題を検討する上での重要となる点を指摘した。
29.「英語学習意欲と職業意識を結ぶESP教育：パブリックスピーキングの応用と検証」	単	2009年9月	国際ビジネスコミュニケーション学会(JBCA) 関西支部 研究発表会（大阪）	美容業界におけるビジネス英語教育の概要に触れ、これまでのESP教育の位置づけについて再考した。加えて、ESP教育において、学習者特性を反映したパブリックスピーキング訓練のあり方について議論した。
30.「ビジネスコミュニケーションの実践力を養う“KICS”プログラム」 【特別企画採択】	単	2009年9月	大学英語教育学会（JACET）全国大会（札幌）	経営学部におけるビジネス英語教育の構築モデルとして、自身が勤務校で実現した「ＫＩＣＳモデル」を提案。個別のタスクベースと、学習者の目的ベースの融合的な教育プログラムの具体例を論じた。
31.「英語スピーチによる国際化教育の可能性」	単	2009年7月	日本国際情報学会（JSGSCS）大阪地方研究発表会（大阪）	ビジネスで使うための英語を学ぶ学生の学習意欲を、英語スピーチ活動の実践という視点で考察した発表。スピーチ活動におけるテーマの「自由度」の設定に関して、いくつかの問題点を指摘した。
32.“English Speech Practice for ESP Education”	単	2008年11月	全国語学教育学会（JALT）全国大会（東京）	英語スピーチを用いて学生の「道具的動機づけ」を高める実証研究の成果を発表した。筆者のこれまでの研究に新たな実証研究結果を加えた結果、ショートスピーチを用いて学生の「道具的動機づけ」の強化を狙う場合は、細かな技術解説を付帯させない方が効果的であるという可能性を述べた。
33.「理容師美容師養成施設における実務英語教育の10年」	単	2008年6月	大学英語教育学会（JACET）中部支部大会（愛知）	日本における理美容師養成施設での英語教育について、その導入背景と10年間のあゆみを概観した。その上で、学生の美容技術に対する関心の高さを、英語学習の意欲に結びつける教育実践が更に重視されるべきである点について、事例を示しながら述べた。
34.“English Courses ; for hairstylists, by hairstylists”	単	2007年11月	全国語学教育学会（JALT）全国大会（東京）	ESP教育においては、「語学を教育する人間」と「現場を知る人間」の双方が、それぞれの知識の欠如を率直に補い合う取り組みが重要である点を発表した。「現場の人間が英語教育を担当する」ということも視野に入れ、新たな教育実践を検討する必要があると指摘した。
35.「英語スピーチ教育における視覚化レトリックの指導」	単	2007年11月	日本大学大学院 総合社会情報研究科 オープン大学院（大阪）	英語スピーチ教育における、レトリック技法の教授法を概観し、「見えないものを見えるように表現する技術」の指導方法について考察した。表現する内容を「身近な経験に置き換えて英文に表現する」技術の指導法を再検討した。
36.「“インターカード”による学生相互の対話と授業改善：褒めあう言葉の傾向分析から」	単	2007年9月	大学英語教育学会（JACET）全国大会（広島）	A4～B4サイズの厚紙で製作するネームカードを活用し、学生相互に「褒めあう」活動が、英語学習のモティベーションにどのような効果をもたらすかを実証的に研究した。結果として、指導者＋学生ではなく、学生＋学生の対話が、受講者の学習意欲を高める点を発表した。
37.「PowerPointの視覚効果を活用した英語授業の実践」	単	2007年9月	私立大学情報教育協会(JUCE) 大学教育・情報戦略大会（東京）	一般的な「スクリーン」に依存しないPowerPointの活用事例とその効果について発表した。主要な論点は、(1)講堂の壁に大きく投影した画像で英語授業の雰囲気づくりを試みる事例、(2)ホワイトボードに映写したスライドと、実際のペンによる加筆部分が連携する事例、の2点。
38.「ラジオショッピン	単	2007年6月	大学英語教育学会	長編ラジオＣＭコピーの分野で見られるレトリック技法を分析し、

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
グの広告コピーを応用した英語スピーチ教育と実践」			（JACET）中部支部大会（石川）	英語スピーチとの共通点を考察した。聴衆の「気付き」から「行動」までのプロセスに、それぞれ共通するMetaphorやIllustration技法が援用されている点を指摘した。
３．総説				
1.「春季 英文学会講演会：実務英語教育(ESP)の実際」	単	2020年3月	武庫川女子大学 英文学会 編, *Newsletter, Department of English, MWU*, 第36号.	2019年6月に開催された「武庫川女子大学英文学会 春季講演会」での研究発表の内容を採録したもの。日本における美容業界向け英語教育の事例について、学習動機と専門分野別英語(English for Specific Purposes)の観点から整理した。
2.「英語プレゼンテーション(Public Speaking)のヒント」	単	2012年4月	立命館大学 産業社会学部 編『外国語学習ハンドブック』, 2012年度版, pp. 32-35.	英語でプレゼンテーションやスピーチをする上での重要な点を、学習者の目線で記した論考。「シンプル」「論理的」「対話的」の３つのキーワードを軸にして、分かりやすい言葉で論説をした。パブリックであってもパーソナルなコミュニケーションを実現するためのヒントを論じた。
3.「基本技術の訓練と論点の視覚化」	単	2011年3月	鈴鹿国際大学 編 *English Speech Contest*, 第13号, pp. 22-26.	英語プレゼンテーションにおける、「声」と「内容」の重要性について、「視覚化」という観点から論じた。揺らぎのない論点を訴求するうえで、核となるアイデアを目に見える形で述べることが、スピーチの全体的な視覚化を実現することを述べた。
4.「「伝わる」スピーチを構成するキーワード」	単	2010年3月	鈴鹿国際大学 編 *English Speech Contest*, 第12号, pp. 30-35.	スピーチの作成過程における、話題の「発展」と「収斂」のステップに注目し、スピーチの推敲過程における原稿の単純化（キーワード化）について述べた。限られた時間内に情報を整理することの重要性を論じた。
5.「「何を言うか」からの英語スピーチ教育」	単	2009年12月	大学英語教育学会(JACET) 中部支部 編 *JACET-Chubu Newsletter*, 第23号, pp. 5-6.	大学における英語スピーチ科目が、「英語でどう言うか」よりも、本質的に「何を言うか」の指導が必要である点を指摘した。社会との接点を意識させるためのスピーチ教育の実現に向け、実際の講座事例とともに教育法を提起した。
6.「「私」と「私達」の視点－スピーチからの再考」	単	2009年5月	明治図書出版 編『学校マネジメント』, 第48巻 第6号, pp. 10-11.	スピーチにおける言葉の選択が、聴衆との距離感の演出に与える影響を考察した。「私」と「私達」という言葉に焦点を当て、言葉のすり替えによってpersuasive speechの論点を婉曲する事象について述べた。また、この視点をスピーチ教育に援用する具体例を提示することで、「言葉の選択指導」という教育上の課題を提起した。
7.「英語スピーチにおける“一貫性”を考える」	単	2009年3月	鈴鹿国際大学 編 *English Speech Contest*, 第11号, pp. 19-23.	英語スピーチの主題設定から原稿作成開始の過程において、トピックの一貫性を維持するための論旨の展開法を論じた。冒頭と総括の一貫性を保つ技術を身近な題材で例示し、あわせて、論旨を正当化するための支持素材の援用法に関する要点を整理した。
8.「心を伝える Content & Delivery の基礎」	単	2008年3月	鈴鹿国際大学 編 *English Speech Contest*, 第10号, pp. 40-43.	contentとdeliveryの両側面から、英語スピーチを発表者自身によって推敲するための方法論を述べた。informativeとpersuasiveのスピーチ構造の違いを解説するとともに、「例示」の重要性に触れ、説得力を伴うスピーチの基礎的要件について整理した。
9.「基本に忠実な“力強いスピーチ”のために」	単	2007年3月	鈴鹿国際大学 編 *English Speech Contest*, 第9号, pp. 32-34.	英語スピーチの初学者に対する意見の論述法を基礎的に論じた。「どう言うか」よりもむしろ「何を言うか」に主眼を置く重要性を述べたうえで、トピックの選択や、主張の論証法についての考察をまとめた。
４．芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
1.第40回 武庫川学院英語オラトリカルコンテスト		2024年11月	学校法人武庫川学院 主催	審査委員長
2.第73回 チャーチル杯争奪 全日本高等学校生英語弁論大会		2024年11月	第73回 チャーチル杯実行委員会 主催	本選審査委員
3.第39回 武庫川学院英語オラトリカルコンテスト		2023年11月	学校法人武庫川学院 主催	審査委員長
4.第38回 武庫川学院英語オラトリカルコ		2022年11月	学校法人武庫川学院 主催	審査委員長

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
4．芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
ンテスト				
5.第37回 武庫川学院英語オラトリカルコンテスト		2021年11月	学校法人武庫川学院 主催	審査委員長
6.第71回 高崎市長杯英語弁論大会		2021年11月	高崎経済大学 ESS主催	審査委員
7.第36回 武庫川学院英語オラトリカルコンテスト		2020年12月	学校法人武庫川学院 主催	審査委員長
8.第50回 龍谷大学 学長杯争奪 英語弁論大会		2020年12月	龍谷大学 学術文化局 ESS主催	審査委員長
9.第49回 龍谷大学 学長杯争奪 英語弁論大会		2019年12月	龍谷大学 学術文化局 ESS主催	審査委員長
10.第35回 武庫川学院英語オラトリカルコンテスト		2019年11月	学校法人武庫川学院 主催	審査委員長
11.第69回 高崎市長杯英語弁論大会		2019年10月	高崎経済大学 ESS主催	審査委員
12.第15回 ドラゴンカップ争奪 英語暗唱大会		2019年5月	龍谷大学 学術文化局 ESS主催	審査委員長
13.第34回 武庫川学院英語オラトリカルコンテスト		2018年11月	学校法人武庫川学院 主催	審査委員長
14.第68回 高崎市長杯英語弁論大会		2018年10月	高崎経済大学 ESS主催	審査委員
15.第48回 龍谷大学 学長杯争奪 英語弁論大会		2018年10月	龍谷大学 学術文化局 ESS主催	審査委員長
16.第32回 東日本大学生英語弁論大会		2018年6月	関東学生英語会連盟 主催	審査委員
17.第47回 龍谷大学 学長杯争奪 英語弁論大会		2017年12月	龍谷大学 学術文化局ESS主催	審査委員
18.第33回 武庫川学院英語オラトリカルコンテスト		2017年11月	学校法人武庫川学院 主催	審査委員長
19.第67回 高崎市長杯英語弁論大会		2017年10月	高崎経済大学 ESS主催	審査委員
20.第32回 武庫川学院英語オラトリカルコンテスト		2016年11月	学校法人武庫川学院 主催	審査委員長
21.第46回 龍谷大学 学長杯争奪 英語弁論大会（全国大会）		2016年10月	龍谷大学 学術文化局 ESS主催	審査委員長
22.第51回 龍谷大学 学長杯争奪 英語弁論大会（学内大会）		2016年10月	龍谷大学 学術文化局 ESS主催	審査委員長
23.第66回 高崎市長杯英語弁論大会		2016年10月	高崎経済大学 ESS主催	審査委員
24.第65回 高崎市長杯英語弁論大会		2015年10月	高崎経済大学 ESS主催	審査委員
25.第8回 全国高等学校スピーチコンテスト		2014年11月	全国英語教育研究団体連合会・東海北陸地区英語教育協議会 共催	東海ブロック大会 審査委員
26.第45回 龍谷大学 学長杯争奪 英語弁論大		2014年10月	龍谷大学 学術文化局 ESS主催	審査委員長

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
４．芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
会				
27.第48回 天野杯 全日本大学生英語弁論大会		2013年10月	獨協大学 ESS主催	審査委員
28.第36回 福澤杯争奪 全日本学生英語弁論大会		2012年10月	慶應義塾大学 ESS主催	審査委員
29.第44回 谷本学長杯争奪 英語弁論大会		2011年9月	関西外国語大学 ESS主催	審査委員
30.第4回 黒正杯 英語スピーチコンテスト		2010年11月	大阪経済大学 主催	審査委員長
31.第13回 三重県高校生英語スピーチコンテスト		2010年10月	鈴鹿国際大学 主催，三重県教育委員会 後援	審査委員長
32.第3回 黒正杯 英語スピーチコンテスト		2009年11月	大阪経済大学 主催	審査委員長
33.第12回 三重県高校生英語スピーチコンテスト		2009年10月	鈴鹿国際大学 主催，三重県教育委員会 後援	審査委員長
34.第1回 三大学親善 英語スピーチコンテスト		2009年8月	大阪経済大学・東京経済大学・松山大学 共催	審査委員（初回開催実現）
35.第2回 黒正杯 英語スピーチコンテスト		2008年11月	大阪経済大学 主催	審査委員長
36.第11回 三重県高校生英語スピーチコンテスト		2008年10月	鈴鹿国際大学 主催，三重県教育委員会 後援	審査委員長
37.第1回 黒正杯 英語スピーチコンテスト		2007年10月	大阪経済大学 主催	審査委員長（初回開催実現）
38.第10回 三重県高校生英語スピーチコンテスト		2007年10月	鈴鹿国際大学 主催，三重県教育委員会 後援	審査委員長
39.第9回 三重県高校生英語スピーチコンテスト		2006年10月	鈴鹿国際大学 主催，三重県教育委員会 後援	審査委員長
40.第1回 学長杯 英語スピーチコンテスト		2005年10月	鈴鹿国際大学 主催、三重県教育委員会 後援	審査委員（初回開催実現）
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1.The Wisdom vol.23		2025年3月	武庫川女子大学 英語スピーチ・プレゼンテーション研究室（編集・出版）	研究論文・発表作品集(国立国会図書館収蔵)
2.The Wisdom vol.22		2024年3月	武庫川女子大学 英語スピーチ・プレゼンテーション研究室（編集・出版）	研究論文・発表作品集(国立国会図書館収蔵)
3.The Wisdom vol.21		2023年3月	武庫川女子大学 英語スピーチ・プレゼンテーション研究室（編集・出版）	研究論文・発表作品集(国立国会図書館収蔵)
4.The Wisdom vol.20		2022年3月	武庫川女子大学 英語スピーチ・プレゼンテーション研究室（編集・出版）	研究論文・発表作品集(国立国会図書館収蔵)

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
5.The Wisdom vol.19		2021年3月	武庫川女子大学 英語スピーチ・プレゼンテーション研究室（編集・出版）	研究論文・発表作品集(国立国会図書館収蔵)
6.The Wisdom vol.18		2020年3月	武庫川女子大学 英語スピーチ・プレゼンテーション研究室（編集・出版）	研究論文・発表作品集(国立国会図書館収蔵)
7.(英語文化学科 ビジネス系列主催 講演会)「カフェと、ビジネスと、コミュニケーション。」 モデレーター		2019年7月	武庫川女子大学 英語文化学科 ビジネス系列 主催（兵庫：武庫川女子大学）	第3系コーディネイタとして、同講演会の企画・渉外・運営と、講演会全体のモデレーターを担当。第1部の講演に先立ち、スモールビジネスをとりあげる背景や、カフェビジネスをとりまく現状のデータを紹介し、第2部のトークセッションに向けた問題提起をおこなった。
8.The Wisdom vol.17		2019年3月	武庫川女子大学 英語スピーチ・プレゼンテーション研究室（編集・出版）	研究論文・発表作品集(国立国会図書館収蔵)
9.「第4回 S-PCフォーラム（医療英語プレゼン部門）」座長・コメンテーター		2015年2月	武田薬品工業株式会社 主催（香川：JRホテルクレメント高松）	２年連続の委嘱を受け、医療英語に関する英語プレゼンテーションを披露した各チームの発表内容と発表技術について座長として講評をし、ベストプレゼンテーションを選出した。
10.「第3回 S-PCフォーラム（医療英語プレゼン部門）」座長・コメンテーター		2014年2月	武田薬品工業株式会社 主催（香川：高松国際ホテル）	医療英語に関する英語プレゼンテーションを披露した各チームの発表内容と発表技術について座長として講評をし、ベストプレゼンテーションを選出した。
６．研究費の取得状況				
1.「ビジネススピーチコミュニケーションにおける「メンタル・ディスタンス仮説」の分析法に関する実証研究」	単	2010年4月	大阪経済大学 2010年度 特別研究費（23万円）	これまでのメタファ分析研究に時系列的概念を取り入れた「メンタル・ディスタンス仮説」を立証するための研究。主としてSPSSを用いた統計分析処理に必要な研究予算として申請し、採択された。

学会及び社会における活動等	
年月日	事項
1.2024年4月～2024年10月	国際ビジネスコミュニケーション学会(JBCA) 論文査読委員
2.2023年4月～2023年10月	国際ビジネスコミュニケーション学会(JBCA) 学会賞選考委員
3.2021年4月～2021年10月	国際ビジネスコミュニケーション学会(JBCA) 論文査読委員
4.2020年6月～ 現在	Researching and Applying Metaphor (RaAM, 英国) 会員
5.2018年11月～2024年10月	国際ビジネスコミュニケーション学会(JBCA) 理事
6.2016年1月～2016年4月	G7 ジュニアサミットin三重2016 日本代表参加者 英語指導講師 委嘱
7.2014年12月～2017年11月	ビューティビジネス学会(JABB) 会員
8.2014年12月～2015年12月	日本国際情報学会(GSCS) 2015年度全国大会(大阪) 実行委員長
9.2014年11月	滋賀県大津市教育委員会 「ICTを活用した外国語教育ティーチングメソッド研究開発業務」プロポーザル審査委員会 外部委員
10.2013年5月～ 現在	国際ビジネスコミュニケーション学会(JBCA) 広報委員
11.2012年5月～2013年3月	Association for Business Communication (ABC, 米国), Asia-pacific Conference 2013 Committee, Publicity Manager
12.2011年1月～2014年2月	国際ビジネスコミュニケーション学会(JBCA) 関西支部長補佐
13.2010年4月～ 現在	日本国際情報学会(GSCS) 理事
14.2009年7月～ 現在	日本国際情報学会(GSCS) 会員
15.2009年1月～ 現在	日本コミュニケーション学会(CAJ) 会員
16.2009年1月～ 現在	国際ビジネスコミュニケーション学会(JBCA) 会員
17.2009年1月～ 現在	Association for Business Communication (ABC, 米国) 会員
18.2005年9月～ 現在	大学英語教育学会(JACET) 会員

学会及び社会における活動等	
年月日	事項
６．研究費の取得状況	
19.2005年9月～2016年8月	全国語学教育学会(JALT) 会員